

特 集

商店街の 元気づくり

少子高齢化や都市への人口流出、自家用車の普及など時代の変化からいくつもの商店が姿を消しています。先人が作り上げてきた商店街は私たちの生活の一部。商店街が活気づくことで地域がにぎわい、その盛り上がりが村づくりへつながっていきます。今月号では、宇都宮大学のワークショップと、村商工会主催のワークショップの内容を紹介するとともに、「中心市街地の活性化」をテーマに座談会を行いました。まずは皆さんで話し合うことから――。



道端に多くの店が並びにぎわいを見せていた昔の商店街（盆市の様子）

かつてのにぎわいを
失った商店街

昭和三十年頃は人口八千人を超えていた鮫川村。昔は新宿地内の商店街で、夏は「盆市」、年末は「暮市」といった催しが開かれていました。子どもから高齢者までが買い出しのために商店街に集まり、活気がありました。

それ以降も中心地である新宿に限らず、各地域で小学校の周辺には商店があり、そこで子どもや地域の人買い物をすると、そのような成り立ちがありました。

現在では、四千人を下回るまでに人口は減少。にぎわいをみ

せていた商店街も後継者不足や顧客のニーズの変化など、さまざまな理由から経営が困難となり閉店を余儀なくされる商店が増えています。そして、空き店舗や空き家が目立ち、寂しさを感じるようになりました。

この問題に直面しているのは鮫川村に限らず、全国各地で商店街が姿を消し、多くの市町村で対策が検討されています。鮫川村においても県事業を利用したワークショップなどを行ってきました。今後、住民の参加を得ながら空き店舗活用や買い物弱者の対応策などを検討していきます。



現在では、歩く人の姿を見ることが少なくなった新宿地内

齋須信子さん



住民が元気になるれば
商店街や村に
人を呼び込める

——現在、村の商店街が少し静かになっている状態です。それぞれの立場から現状に対しての思いや考えられる原因などを聞きたいと思っています。まず、中野区長さんはいかがですか。
湯坐 生活が豊かになったことで、人に頼らなくても生活できるようになってきました。利便性の良い所に行って買い物をするようになり、義理人情よりも自分の生活が優先されるようになったと感じます。今では「買いたい支え」というほどの考えや思いがあまりないのではないのでしょうか。
齋須 鮫川村のような中山間地域では農業が基本です。農業が

でも何店舗もあり、正月の買い初めもすごいにぎわいでした。
生活の変化とともに
衰退した商店街

合理化されていくにしたがって商店街が衰退していったように思えます。昔は農作業も「結」だったので、隣近所十人くらいが集まれば仕出しをしていました。しかし、そういったことが省かれていったことが商店街などにも影響していったのではないのでしょうか。合理化によって義理人情や「結」などの絆がなくなってしまったのだと思います。
鈴木 昔は隣近所、隣保班などがありました。そういうコミュニケーションを今では面倒に思



湯坐和彌さん

座談会出席者

■対談者

湯坐和彌さん(赤坂中野区長)
齋須信子さん(赤坂中野字新宿)
鈴木市悠さん(赤坂中野字新宿)
関根政雄さん(商工会長)

■司会

我妻正紀村商工観光係長

※役職名については、3月18日現在



地域づくり座談会

中心市街地の 活性化を考える

寂しくなってしまった商店街。
子どもから高齢者までが集まるような
場所にするためには…。
村商工会や地域住民の皆さんに
それぞれの意見を出し合ってもらいました。

何件もの店が並んでいた
村の中心地・新宿
——これまで村の中心地として新宿があり、栄えていました。まずは、昔の生活の様子やにぎわいなどについてお話をいただきたいと思っています。
湯坐 昔は、村外に買い物に行くのではなく、地元の店を利用

することが当たり前でした。また、精算は現金でなくても良かったんです。信頼関係というのかな。あの時代は、お互いを支え合って生活していたような気がします。
齋須 昭和五十年頃は、商工会女性部の会員が七十三人もいました。それだけの商店があったということですね。通りには何件もの店が並んでいました。文房具屋やとうふ屋、時計屋、呉服屋など、何でもありました。
鈴木 確か、映画館もありました。あの頃は今より楽しかったように思います。当時は八幡神社の下にやぐらを組んで盆踊りをやっていました。参道をぐるっと囲むほどの人が集まっていたのを覚えています。
「盆市」、「暮市」では、狭い道路に店が並び人が溢れている状態でした。
——関根さんは新宿周辺ではありませんが、当時、中心地はどのように見えていましたか。
関根 子どもの頃は、「お母さん・お嫁さんに感謝する会」や「文化祭」などの催しがあり、親に連れられて新宿に来ていました。すごい人の多さだったという記憶があります。食堂だけ

館山を中心に 集落全体がつながる 工夫が必要

う人が増えたように感じます。昔のようにやっていたら、隣近所の協調性ができ、お互いに心を知り合いながら付き合っていたことができるでしょう。
齋須 新宿では、花見や旅行など、いろんな年中行事があり、密接な関係が続いていました。しかし、今ではそれも減ってきてしまい、本当に寂しいと思います。小さい集落や地域が小さい絆で結ばれていけば自然に大きなつながりになると思います。
鈴木 年中行事などをなくさないで続けていくことは大切です。
関根 商店街がにぎわっていた当時と今で違うのは、人口が減ったこと以外に生活にお金がかかるということですね。ですから、後継者となるはずの若い人が商店を継がずに、収入を得るため外で仕事に就くというケースがあります。車社会となった今で

新宿・道少田・広畑地区 集落点検・地域活性化 ワークショップ



住民から説明を受けながら集落を見て回る学生たち
(10月14日実施「集落点検」)

県が平成二十四年度に行った「大学生の力を活用した集落復興支援事業」に村の赤坂中野区と赤坂東野・石井草区が応募。宇都宮大学農学部守友ゼミナールの守友教授と学生、新宿・道少田・広畑地区周辺の住民が参加し、二回のワークショップを行いました。
一回目(十月十四日)は、「集落点検」として学生と住民が実際に集落内を歩き、集落の様子や魅力、課題などを探しました。二回目(十一月十七日)は、「地域活性化ワークショップ」として「集落点検」の内容をもとに、課題の解決策や地域づくりに関して話し合いました。また、報告会が三月

十日に行われ、学生たちの視点から提案などが述べられました。

■魅力

- ・自然豊かで景観が美しい。
- ・水質管理が行き届いていて、水がきれい。
- ・子どもたちのあいさつが活発。
- ・住民が先人や高齢者を尊敬している。
- ・道路にゴミがなく、花壇も手入れされている。

■課題

- ・過疎化・高齢化が進んでいる。
- ・交通の便が悪い。
- ・空き家増加による景観の悪化。
- ・商店の数が少ない上、土・日・祝日は休業となるので、必要なときに必要なものが買えない。
- ・さびた看板や枯れ木・枯草、空き家など、さびれた印象を与えるものが多い。
- ・館山公園やオオムラサキなどの環境資源や観光資源を活用しきれていない。

■提案

- ・交通問題に関して、デマンドバスの運用を提案。予約することで自宅までバスが迎えに来て、目的地まで直行するというシステム。
- ・住民が既存の村の魅力にもっと目を向ける必要がある。すばらしい特産品や農村景観があるのに伝えきれていない。

我妻正紀村商工観光係長



要で、地域の皆さんが提案したことを少しでも実現していく組織が求められると思います。商工会としては、閉店する事業所に対して「辞めないでください」と言うことも役割かもしれませんが、これまで店を営んできたことに感謝を述べることも一つの仕事だと思っています。無理にでも続けてもらうことはできません。あとは頑張つてやるという商店に対して支援をし、残っている商店の売上を少しでもあげることが商工会の仕事だと思っています。

商店街の活性化から 村全体の活性化へ

関根 次の世代の担い手をつくる必要があります。人材が育てば、今後、商店街を含め村が活気づいていくと思います。仕事などの関係で、村に居

られないという人もいます。そういった人たちにも、頭の片隅にでも鮫川村のことを気にかけてもらえるような仕掛けを作らなければいけないと思います。村のファンクラブをさらに充実させてファンを増やし、外からも村を支えてもらえるようにならなければいけません。

齋須 関根さんの言うように、鮫川村のファンを増やすことが重要だと思います。村出身者は全国あちこちにいますが、そういう人たちに情報発信することが重要だと思います。ふるさとを誇りに思い、帰省する回数も増えてくるのではないのでしょうか。それが商店街や地域のにぎわいにもつながるのかなと思います。

湯坐 先人に感謝する気持ちを形にして、後世に残るものを作つてほしいです。

宇都宮大学のワークショップで、学生から館山はもっと利用価値があるという意見が多く出ました。「手・まめ・館」に下る散策道をもう少し整備して、館山を中心に「手・まめ・館」と商店街、集落全体がつながるような工夫が必要だと思います。

鈴木 空き店舗を活用して、高齢者から子どもまで、誰もが心地いと思える場所をつくつてほしいと思います。

あとは館山の景観です。見回つて倒れている木などを手入れしていくことが必要だと思います。せっかくみんなで協力して植樹した木がダメになってしまつては、かわいそうですから。

――皆さんから出していただいた意見などを踏まえて、今後の中心市街地活性化策を検討していきます。本日は、ありがとうございました。



関根政雄さん

担い手づくりが必要。 人材が育てば 商店街は活気づく

は、白河や須賀川などにも簡単に行けるようになったことも一つの要因ではないでしょうか。また、昭和五十年頃までは、結婚式は村の公民館を利用して、その仕出しなどで商店街は潤っていたという話を聞きました。今のように入場を利用するようにしてから、だんだんと様子が変わっていききました。今では、葬式も式場になり、仕出し関係がさらに衰退していききました。

買い物弱者対策と 人を呼び込める商店街に

――合理化によるコミュニティの衰退や人口流出などの課題ができました。これから明るい方向に向かつていくために、商店街がどのようなことになってほしいか、そのためにどんなことをしていくことが必要なのか、皆さんの

考えを教えてくださいたいと思います。

関根 この危機感はチャンスだと思います。「どうするんだ」と皆さんで考える機会です。

高齡化が進み、車が運転できないなどの買い物弱者対策が必要で、コンビニや大型店は電話一本で新鮮なものをすぐに配達してくれます。村商工会の商店でも配達できる体制をとっています。機動力があり、買い物だけでなく高齢者がコミュニティションをとる機会となれば、少し高い値段だとしても、利用するのではないのでしょうか。

齋須 何か話題になるようなことを新宿周辺から発信できたらと思います。

関根 盆市、暮市のようなものを復活させても面白いと思います。曜日や時間帯などを決めて定期的に手持ちしたもの売る

空き店舗を活用し、 誰もが心地いと思える場所を

などして、道端に売り物が並んで人が集まればにぎやかになると思います。

齋須 そこで自分で作つて余つた野菜を売るのもいいと思います。住んでいる人が元気になるような話題をつくることで、そこに行つてみたいと思う人が増えて、村外からも商店街に人を呼び込めるようになればと思います。



住民と学生が気づいた課題などを模造紙に張り出し、一緒に解決策などを考えた（11月17日実施「地域活性化ワークショップ」）

- ・景観をより良く見せるために、さびれたものを撤去する。
- ・展示ギャラリーなどの維持コストがかからない空き家活用や積極的な人の誘致。
- ・伐採した木材を休憩所としてベンチなどに活用。
- ・館山公園を中心とした人為的観光資源の活用。

村商工会 中心市街地活性化ワークショップ

村商工会が中心市街地活性化を考えるためのワークショップを開催しました。一回目（八月二十九日）は、「村づくりを考える」をテーマに鮫川村の自慢できるところや困っているところなどを出し合い、現状分析などを行いました。二回目（十月十二日）は、「村中心市街地のにぎわいづくり」をテーマに開催。中心地の機能の充実とコミュニティの維持のためにどんな商店や施設があればよいのかなど、空き店舗活用について話し合いました。

■課題

- ・担い手が少ない。
- ・村内に企業が少なく、働く場所がない。
- ・商店、品数が少なく、買い物できるところが少ない。

■対応策案

- ・村の中心地ににぎわいをもたらすことが重要。空き店舗を活用した複合型施設を検討。
- ・村商工会の充実（会員の拡大、経営改善、人材育成など）。
- ・住民の力を引き出すための場の提供と情報発信・共有の機能提供。
- ・買い物支えや域内循環など住民と商店が互いに助け合うためのコミュニティづくり。



数名ずつのグループに分かれ、空き店舗活用などについて自由に意見を出し合った（10月12日実施のワークショップ）